

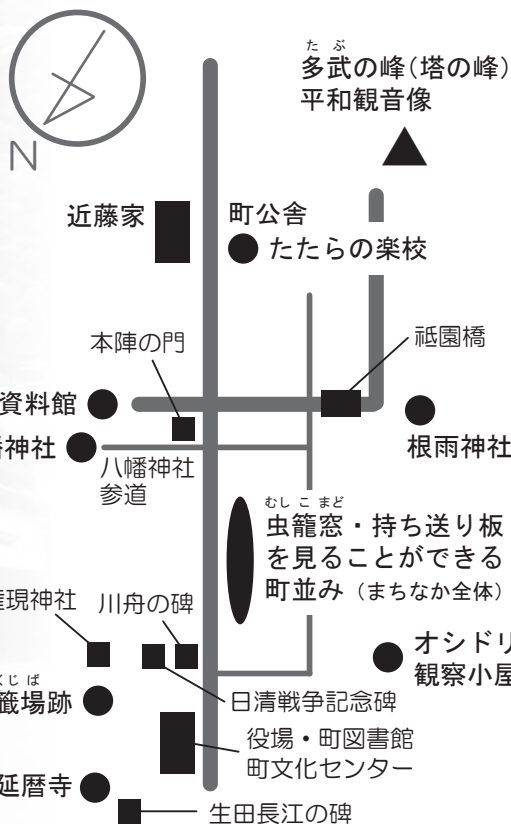
古き良き街並みが残る

根雨のまち

「知っているようで知らない町の歴史について、見て、聞いて、その歴史に触れてみたい」そんな気持ちから始まったこの企画。

まちなかを歩いて、気付かなかったことや、伝えていきたいことなどをレポートします。

ゆっくり歩いてみたくなる「まち歩き」をお勧めします。根雨からスタートです。



歴史に触れたいと多くの人が訪れる

皆さんは、平日・休日を問わず、根雨のまちなかを歩く数十人の団体を見たことはありませんか。

根雨は江戸時代、出雲街道が出雲松平侯の参勤交代路となり宿場町として栄え、本陣やお茶屋などにぎわっていました。また、たたら製鉄業をはじめ、数々の事業で財を成し、地元の教育や文化の発展に尽くした近藤家の尽力により、栄えてきました。

その古き良き町並みが根雨には残っており、昔のたたずまいを感じさせます。漆喰の壁、格子、虫籠窓など歴史を偲ばせる建物の造りや保存状態の良さが、今、注目を浴びている要因となっています。また、根雨まちなかを走る水路の瀬音が、訪れた人を癒しています。かつては生活用水や農業用水などとして使われ、生活を支えていた水路。その澄んだ水の流れは私たちが楽しませてくれます。そして、家々にあるいけすは、水路から取水し、飼っているコイや水路内を泳ぐ溪流魚の命を育



町公舎では「たたら楽校根雨楽舎」が開かれている

京を偲び、京になぞらえた根雨

さらに、昔の面影を残す町公舎を活用し、「たたら楽校」が整備され、奥日野の大産業であった、たたら製鉄業に関する偉大な歴史を紹介しています。その中でも、近藤家について詳しく知ることができます。

根雨は東西南北を寺や神社などに守られています。京都から流された長谷部信連が都を偲び、もともと宝仏

山にあった寺を、北東の鬼門に当たる今の場所に建立し、延暦寺と名付けました。京都御所の鬼門にあるのは比叡山延暦寺です。なお、東は八幡神社（今は根雨神社に合祀されています）、西は根雨神社（牛頭天王を祭っています）、南は多武の峰（塔の峰）です。山陰合同銀行と本陣の門のある根雨神社旧社殿との間の路地が八幡神社の参道で常夜燈が現存し、面影を残しています。また、根雨神社と八幡神社の森は、昭和59年2月、県の天然記念物に指定されました。このほか祇園橋など都を



当時の商家の風情を残す近藤家

偲び、名付けられたものが残っています。

新たな発見の連続が待っている

根雨6区から1区にかけて高低差は6m。見た目には分かりにくいですが、坂になっており、1区に向かって高くなっています。

根雨のまちなかを歩いてみると、普段気付かないことがたくさんありました。

まず、現在の町役場庁舎裏手には「富籤場」があったという事です。富籤は江戸時代、神社仏閣の資金調達の手段として行っていたもので、幕府の許可を受けて設けられました。近隣では、出雲大社と大山寺、根雨の3カ所で行われていたと記録が残っています。



虫籠窓に歴史を感じる



八幡神社の参道。この奥に神社がある

ます。

また、「ここは、古き良き町並みが残っていますね」と訪れた人は話します。町屋の風情が残る家には格子のほか、2階窓に「虫籠窓」を見ることが出来ます。形が虫かごに似ているため名付けられたもので、明かり取りと通風が役目です。また縦格子の形は三角形や四角形などさまざまです。

そして、多くの家々で「持ち送り板」を見ることが出来ます。ひさしが雪の重さに耐えるよう、それを支えるように取り付けられており、見事な彫刻が施されているのが特徴で、ほかに同じものはないため、探してみるのと面白い

でしょう。

このほか、細い路地や小さな水路のたたずまい、ところどころに置かれた水琴窟の音色など、古い町並みの風情を感じることでできる場所がたくさんありますので、ゆっくり歩かれることをお勧めします。

まちの歴史や文化財について詳しくは、町文化センター（電話72・1300）まで。

個性ある彫刻が施された持ち送り板

